



桜の聖母短期大学「親と子の広場」

さくらっこ便り 2016年4月号

涙、涙の3月26日から数えて何日・・・？

4月16日（土）から、2016年度の土曜日のさくらっこが始まりました。
まるで、光江先生もおじいちゃん先生もそこにいらっしやるようなひと時でした。
今日は、花は散ったけれど、花見団子を作りました。

チンパンジーが逃げた！

T君（6年）が広場に来るなり、長谷川先生のうちの近くの八木山動物園から、4月14日にチンパンジーが逃げた話をしてくれました。近くの電柱に登って、しまいには感電して落ちてしまって残念でした。「長谷川先生のうちに寄ったんじゃないかなあ」と、お母さんと話し合ったそうです。

花見団子 談義



耳たぶくらいの硬さに作る・・・って書いてあるよ。

しかし、みんなすごいもんですね。
子ども達と言うより、大人が楽しんじゃってます。
団子作ってたら、△とか□とか、棒型とか、Rくんは「これ、うち」とか言ってます・・・
「へえ、子どものイメージって面白いですね」と、Yちゃんのママが感心したのは、大人の作品でした。



おはじき型団子をゆでていたR君（2年）のママ「わあ、面白い・・・これ白血球みたい」 私「??」
「子どものとき、鼻血が出て、たまたま子ども用の顕微鏡があったので、プレートに載せて鼻血を見たんですよ。そしたらこんな形で・・・」
私「すごい・・・子どものときから科学者みたい。」
T君父「ふつう、顕微鏡は家がないしね」・・・ごもっと



「ママ、ドンマイ！」

Aくん（4歳）は、遊んでいるうちに、ちょっとしたきっかけで、大きな声で泣き始めました。ママが一生懸命気持ちを立て直そうとしても難しくて、大変そう・・・「この頃、こういうこと多くて」と、ちょっと弱気な顔を見せたママでした。団子も「食べない！」と言っていたけれど、「みたらしの味、ちょっと自信ないんだけど味見してくれる？」と言ってみたら、ぺろりと食べてくれました。そのあとは、ご機嫌を直して、3種類の団子を全部食べて「全部おいしかった」と笑顔。ママは「2歳のイヤイヤ期は、そうでもなかったのに、今になってちょっと大変」とこぼしていると、ベテランお母さんお父さんたちが、口々に「うちなんかもっと大変だったよ」とか「一人一人違うけれど、どうしても通る道ですね。気持ちを出せていいんじゃない？」なんて、ママを励ましてくれました。それをいつの間にか聞いて感じたAくんが、「ママ、ドンマイ」と小さな声で言いました。「わあ、ちゃんとわかってるんだ」とYちゃんのママが感心すると、もう一度Aくんが「ママ、ドンマイ！」と、ちょっと照れた笑顔で言いました。ママと一緒に大きくなれるみんなで作る広場の力を感じます。



ママが夢中

今日のテーマは「風船で遊ぼう」でした。風船にビニールテープを貼って、ボールみたいに丈夫にしました。

Tくん（2歳）は、特に興味がなかったようでしたが、ママの方が夢中になっていました。何重にもテープを貼って、最後は緑のテープをびっしり貼って、カボチャみたいな面白いボールができました。大人も本気で遊べる広場で

後記

「一人でがんばる」とドキドキしていた私ですが、保護者の皆さんがいつものように、スムーズに広場を進めてくださって、いつも通り楽しく過ごせました。今まで同様、子どもも、大人も居心地の良い広場にしていきたいと思います（狩野）

